

1 番 改めましておはようございます。通告6番 1番議員、清水亜樹です。通告に従いまして、地域における青少年育成環境の支援についてお尋ねいたします。

大井町次世代育成支援地域行動計画の後期計画が今年度で終了いたします。この後期計画の現状と課題の中には、今後も多様なライフスタイルのニーズに対応できるよう、地域の子育てサービスの充実を図ります。子育て中の親同士や地域の人が交流できる機会の充実が求められているとともに地域全体で子育て家庭を支えることができるよう、地域の子育て関連団体やボランティアの活動を推進しますとあり、また大井きらめきプラン第2次実施計画の重点分野の中に町民とともに進める協働のまちづくりとあり、地域において世代間の交流の機会と次世代を担う人づくりにかかわる場をつくるとともに、地域の自然や歴史、伝統文化の保存や継承に対する意識の向上、社会規範を習得できるような体制づくりを推進しますとあります。

このように地域の子ども会は地域において世代間の交流の機会と次世代を担う人づくりにかかわる場のコミュニティー団体であり、なくしてはならない重要な団体と私は考えます。地域における要の青少年育成環境団体子ども会の件については、先人、先輩議員が何度か質問していますが、5年ほど前の質問時より子ども会加入率が大幅に減少しているのが現実です。当時の町長の答弁の中では、地域の方や地域の子ども同士がいろいろなかかわりを持つというようなことは大変必要であると申し添えました。町長の言っているとおりですが、子ども会は加入者の減少により子どもたちが地域の方や地域の子ども同士のかかわる機会が少なくなっているのが現状ではないでしょうか。こうした子どもたちの地域コミュニティの場がなくなると、危惧するのが防犯面や防災面でもあり、地域で子どもたちを見守る面でも地域での活動や行事、祭りなどで触れ合い、またそういった機会子どもを通じて子育て世代と年配の方、お年寄りの世代とのきずなが深まり、災害時の共助の役割が発揮すると私は考えています。

また青少年犯罪が近年問題視される中、皆様も御存じのとおり先日川崎で非常に残忍な青少年犯罪が発生しました。こうした凄惨な事件を防止する上でも青少年の健全育成の環境を整え子ども会の加入率を上げていく、また青少年育成会ジュニアリーダー等の活性化など施策を急がなくてはならないと思います。何より地域において行事、活動を通じてお年寄り、子どもたちが顔見知りになることが非常に大切なことだと考えております。子ども会は地域において世代間の交流の場の機会の場であり、

また学年を超えた集団行動により社会の一員であるという自覚や社会性、協調性など育む青少年育成環境の組織団体としてますます重要で、特に単位子ども会への支援が必要と考えます。

そこで、現状の地域における青少年育成環境の支援について次の2点を伺います。

まず1点目でございますが、近年著しく子ども会加入率が低下していますが、現状を町はどのように捉えているのか。また加入率低下の対策、支援策は考えているかをお伺いします。

次に2点目ですが、地区青少年育成会や子ども会員のOB、OG的存在でもある青少年を対象としたジュニアリーダー等が子ども会に対して今後どのようにして支援していくかをお伺いいたします。

以上、1回目の質問といたします。

町長 改めましておはようございます。それでは、通告6番 清水亜樹議員の地域における青少年育成環境の支援についてというようなことで二つ御質問を頂戴しておるわけでございます。

そのような中いろいろ青少年の育成といいますか、子どもたちばかりでなく人間が育み、そしてまた老後に向けていく上でも地域とのかかわりということは非常に重要になるわけでありまして。そんな中でいろんな団体があるわけでございますが、青少年を取り巻く団体と、またそれを支援する団体とあろうかと思えます。町のいろんな組織の中で青少年指導員だとかいうような組織もあったり、また地区においては青少年育成会だとか、また青少年指導員の皆さんと連携されるところのジュニアリーダーの育成等もさせていただき、子どもたちが健やかに育つ環境づくりをしているわけでございます。大変多くの皆さん方の御協力をいただいておりますが、ある面では目的を一つとした団体が各方面から支援するというようなことは大変重要じゃなかろうかなと思うわけでございますが、余りにも近年ではそういう組織が一つ事あるごとにふえていくということも大変協力視野に置いたり、またそれぞれの団体においても動きが複雑になっているのかな、細かい分野を追っていかねければならない、相対的にもっと物事を考えるということができ得なくなっているのかなというような思いもするわけでございますが、それぞれの組織で動いていただいて、そのような働きをしていただいているわけでございます。

また子ども会においては、単位子ども会があり、そして子ども会連絡協議会があるわけでございます。近年では単位子ども会の組織力が弱くなっているというような状況にわるわけでございまして、この辺のところ

は非常に課題の一つじゃなかろうかなと思いますし、自治会においても加入率が下がっておるといような自治会もあるわけですが、この辺のところは課題であるわけですが、やはり自治会のいろいろな活動等を通じた中でそういうような組織力を高めていくといようなことじゃなかろうかなと思います。

そういう点におきましては、地域の単位子ども会においてもその活動によって加入率と申しますか組織力が大きくなっていくということも必要じゃなかろうかなと思いますし、近年我が国においては全てが、大人もにおいても幼児化が進んでるんじゃなかろうかと、こんなことを言われる方もあるわけですが、子ども会に関しましても余りにも大人のかかわりが大きくなりすぎてるんじゃなかろうか、道祖神においても本来であれば子どものお祭りであったわけですが、どこを見ても大人主体の祭りで、子どものほうが脇役に飾られているようなそんな状況にあるわけですが。この辺のところも課題の一つじゃなかろうか。

また単位子ども会を支えてらっしゃる役員の方の皆さんの意見を聞きますと、連絡協議会、いわゆる町のほうの行事のために振り回されすぎるんじゃなかろうかと、そんな御意見もあるところでございます。

何はともあれ、近年子ども会に入ってる方と申します子どもさんとの差別化も図ったらどうかといようなことも町でも活動を展開したといような状況にあるわけですが、これがいいかどうかという問題は今後また議論していかなければいけない課題の一つじゃなかろうかなと思いますし、やはりそんなところ差別化と申しますか、入ってる方々の御苦労に報いるためにもそんな事業展開をし始めておるところでございませう。

なお、今後の詳細につきまして教育長のほうから答弁させますこと御理解いただき、私の答弁とさせていただきます。

終わります。

教 育 長 それでは、私から2点の御質問につきまして順次お答えさせていただきます。

最初に、子ども会の現状についてということでございませう。子ども会の加入率の問題につきましては、御存じのとおり全国的に低下傾向にあり、本町におきましてもその傾向は例外ではなく、過去3年間の状況を見ますと平成24年度が67.2%、平成25年度が60.2%、平成26年度は57.1%と減少が続いているところでございませう。平成19年度の加入率は96.0%であり、過去には小学生は子ども会に加入しているのが当然と思われた時代もご

ございましたが、残念ながら現在では約6割程度になっているという状況でございます。このような状況ではございますが、子ども会の活動というのは校区の異なる地域と学年を超えた親睦や、自治会見守り隊などさまざまな人との交流を通して子どもはもとより、それに携わる大人もコミュニケーションが図られてきた大切な場であると認識しております。

しかしながらこのまま会員離れが進み、地域におけるコミュニケーションが疎遠になると地域行事や防災、安全面など支障が出るのが懸念されることも事実だと考えております。また子どもの数も減少傾向にあり、地区によっては休会する子ども会も出てまいりました。これに伴い本部役員数においても平成25年度に相和地区の単位子ども会役員からの提案により、全8区8人体制から7、8区合同の7員体制で運営しております。そうした中、町では子ども会組織の維持拡大を喫緊の課題としている町子連を支援し、その取り組みの一助とするため平成24年度から単位子ども会役員を対象にアンケート調査を実施し、現状把握に努めるとともに町子連への情報提供を行ってまいりました。その中で子ども会離れが進んでいる原因について質問した項目では、子どもの習い事などが忙しくて子ども会行事に参加できない、役員になると負担になるという回答が多く見られました。また自由記載欄では、役員の負担感についての意見が多く見られました。その一方で子どもたちは皆楽しそうで、充実した1年間でしたという意見も少なからずございました。

得てして多様化という言葉でくくってしまわれがちな昨今の世の中ではございますが、子どもの事情というよりも大人の事情が見え隠れしているのはある意味寂しい結果であります。反面、大変だったが役員を受けてよかったとの意見も多くあったことについて着目すべきではないでしょうか。こうした子ども目線や役員を引き受けての満足感、達成感を次の保護者達に伝えることも地道ながら必要であると考えております。

続きまして、支援策についてお答えいたします。町では次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、先ほどから町子連と呼んでおります大井町子ども会育成者連絡協議会への補助金や会議資料の印刷、各種事業の運営において事務局としてかわり支援をしております。町子連に属している単位子ども会は各自治会単位で組織している地域に密着した最小単位の子どもの会組織であり、町といたしましてもその認識を持って町子連への支援を行っておりますことを御理解願います。

これらを踏まえまして、町では平成25年度から新たな事業として小学6年生を対象に子ども会社会見学を提案し実施しております。これは高学年になるとこんな事業に参加できるという楽しみをふやすことを目的に、未

加入者との差別化を図り子ども会ならではの魅力ある事業として企画したものです。平成25年度は平塚市美術館バックヤード見学、本年度はANA機体整備工場見学を開催し多くの子どもたちに参加していただきました。平成27年度も思考を凝らした社会見学を町として提案し、町子連と事業実施に向けて検討を進めております。このように町子連に対して提案や運営等の支援をすることにより単位子ども会に対しましても間接的ではございますが支援を行っております。

次に、二つ目の地区青少年育成会ジュニアリーダー等の支援協力団体の今後の活用についてお答えいたします。地区青少年育成会は現在町内19地区で組織され、町内各地で青少年の健全育成活動が行われているところです。地区により取り組みは異なりますが、防災訓練に中学生を参加させたり、ウォークラリーで大人と子どもと一緒に地区内を回り触れ合いと地域の再発見をしたり、さらには夏にミニキャンプを開催して青少年の自主的な活動を促す取り組みをしたりしている地区もございます。

町では、これらの青少年育成会活動を町内各地で積極的かつ円滑に行っていただくため地区青少年育成会長会議を開催し、各地区の情報交換を行うとともに活動を支援するために補助金を支給しております。

青少年育成会の発足した経緯は、今から30年余り前に湘光中学校で校内暴力が横行し学校内に警察が入るなど、その対応に大変苦勞したことにより、このとき学校や家庭だけではなく、地域ぐるみで子どもを育てていく必要があることから各地区で新たな組織の結成が求められ、平成3年には町内全地区に青少年育成会が設立されました。その後当時の問題行動は収束しましたが、問題行動がおさまると青少年育成についての意識が低下し、社会の関心が薄れると問題行動は再び顕著化してきました。数年前の湘光中学校での問題行動は御存じのことかと存じます。現在では地域の方々を始め学校やPTA、警察等の積極的な取り組みにより湘光中学校の生徒は大変落ち着いて毎日を過ごしていますが、そんな中でも社会全体が青少年に関心を持ち、地域の子どもは地域で育てるという考え方がますます大切になっています。町では、今後も各地区青少年育成会が積極的に地域の小学生、中学生と言葉を交わし、さまざまな事業により地域の交流を深められるよう支援をしてまいります。

次にジュニアリーダーについてですが、ジュニアリーダークラブは平成15年度に発足した青少年団体で、対象は中学生、高校生を中心におおむね25歳くらいまでの青少年を対象としております。このクラブは青少年指導員協議会で検討を重ね発足した団体で、さまざまな地域活動に積極的に参加し、奉仕活動を通じて知識、技術の向上に努め、大井町の次代を担うリ

ーダーとなることを目的としております。

またジュニアリーダーの育成につきましては、上部組織である青少年指導員協議会が積極的に担い、常に一緒に活動を行っており、現在の会員数は22人でございます。主な活動といたしましては、青少年指導員と一緒に小学校4年生から6年生を対象にした子どもキャンプのボランティアを始め、子ども会ドッジボール大会の審判、単位子ども会が主催するクリスマス会へのレクリエーション派遣、さらには町民体育大会など町行事のボランティアを積極的に行っております。

以上のようにジュニアリーダーは町の青少年育成に関しまして一定の役割を担う存在となってきておりますことから、町といたしましては引き続き青少年指導員協議会と連携しジュニアリーダーの育成支援に努めてまいります。

私からの答弁は以上でございます。

1 番 それでは、幾つか再質問させていただきます。

今答弁にあったように、大井町でなくほかの町でも、ほかの地区でも子ども会の加入率に関しては減少傾向にあると思います。今あったように休会する子ども会があるということなんですけど、これは当町内ではないと思うんですけれども、聞いたところによると休会している子ども会もあるということを知っています。こういった休会するような子ども会が地区で出てしまうと、もし本町でも単位子ども会が地区でもなくなってしまうというようなことも出てくると。いろんなところに影響が出てくるのではないかと考えております。加入しない親御さん、子どもというのは、今答弁にあったようにいろんな理由があるとは思いますが、こういったことに対してアンケートをとられたということで、アンケートの内容だと一番多くはやっぱり役員をやるのが厳しいということで退会されるということなんですけども、あとはスポーツクラブ等に入ってなかなか行事に参加ができないから退会してしまうということが多いいんですけども、そのアンケートの中でほかにはどういった理由が挙げられてるのかなということをちょっとお聞きしたいと思います。

生涯学習課長 最後の御質問の中で最初にお話がありました休会という地区でございますが、現実的に大井町の中でも1地区ございます。ただ、そこはやはりお子さんが少なくなってしまうと、どうしても子ども会を運営するのが難しいということでの休会の申し出でございます。今現在はまだ正式には整っておりませんが、近くの地区と一緒にできないかという状況でございます。

そしてアンケートの中でやはり子ども会に入らない理由というところ

でございますが、先ほどのお話以外では、やはり親の考え方による都合とか、これは先ほどの負担感という部分も含めてのところがございます。また子ども会の行事が多すぎてなかなか参加できない、あるいは仕事を持つ親がふえた、やはり自治会行事の手伝いの負担が大きい、あるいは町子連以外の団体からの手伝いの依頼が多いという、そのような回答がございました。

以上です。

- 1 番 おっしゃっているように、私も子ども会の何地区かの会合にちょっと出させてもらって、お母さん方のいろんな意見を聞かせてもらったりどういったところが大変かとか、そういったものを聞かせてもらったりもしたんですけども、やはり行事が多かったり役員が大変だということで、言うとな私の家内も子ども会の役員をやっています、非常に大変な部分があるかと思えます。そうした中で何とか一番の理由である子ども会役員の負担を軽減ができないかなとか思っています。

そこで二つ目の質問の中に少し入ってしまうんですが、ジュニアリーダーとか各地区にある育成会とかがサポートというか、支援をしていけたらなと思っているんですが、なかなかそれを子ども会がそういったところに対して要望するというのも難しいと思うんですね。そういったところを町で合同で会議をしていただくとか、そういったものの中に入れていただくとか、そういったことを今後やっていく場を設けていただけないかなと思えますが、その辺どうでしょうか。

生涯学習課長 合同というたとえば今、おっしゃった地区の青少年育成会の関係で、その現状も含めたそういう会議の提案を青少年育成会の会議の中でお話を25年度させていただいたところがございます。ただ、その子ども会の組織もそれぞれでいろいろ状況が違います。加入率も違いますので、加入率の高い地区からすると低い地区の話を知るとなかなかその話を聞いてどっちかというマイナスの捉え方をしてしまうというので、それは果たしてどうなんだろうかというそういう御意見もございまして、実現はしなかったんでございますが、やはり前向きな形に持っていくということからすれば、やはりそれも1つの方法ではないかなということは事務局的にもいまだには考えてございますので、やはり御提案ということでそういう形ができる場が設けられるようであれば、またそういう形を御提案をさせていただいて、ジュニアリーダーの皆さんもそういうところにもし加わっていただければまた違ったお話が受けられるのかなとも感じしておりますので、検討のほうさせていただければと思います。以上でございます。

- 1 番 地区によって大分加入率というのが、中には100%に近い、100%の地区

もありますし、一番低くなっているところでは34.9%と非常にこのまま行くと、子どもがいなくなってしまうんじゃないかなというような地区も出てきています。全体でやると今、課長の言っていたように、温度差があるというか、いろんな食い違う部分が出てくるかとは思いますが、そうしましたらちょっとそうやって低加入率の地区との話し合いの場とかを設けてもらうとか、そういう事情を聞いてもらうとか、そういった場を設けてもらう機会をつくってほしいなと思っています。

ジュニアリーダーのほうなんですけれども、ジュニアリーダーもやはり先ほど答弁の中にあつたように今会員数が22名ということで、やはり年々加入人数が少なくなっている状況かと思うんですが、このジュニアリーダーの募集というか、加入の呼びかけという周知というのはどのような感じでなされてるのかなと。

生涯学習課長 ジュニアリーダーにつきましては、中学生以上ということで、広報等であれば学校にもお話をさせていただいて募集のほうかけさせていただきたいと思います。以上です。

- 1 番 ジュニアリーダーの周知というか、存在をなかなか知られてない対象年齢の方も結構いまして、もう少しその周知をしていったほうがいいんじゃないかなと思います。実際に私どもの地区にも、町のジュニアリーダー組織という以前に、地区単位で私ども地元のほうではジュニアリーダーという存在をとおして、子ども会をサポートしたり、育成会を中心に活動しているんですが、その子たちに聞いてみても、町にジュニアリーダーがあるということを知らなかったり、結構町の組織としてのジュニアリーダーということがあまり周知されてないような気がいたします。もう少しジュニアリーダーというものを周知して加入数をふやしてもらって、私の希望としてはそのジュニアリーダーがもっと会員数ふやしてもらって、各地区にジュニアリーダーというものが存在して、町に加入しながらも各地区に何名かいるというような形で、それはやはり子ども会としての支援をしていけるような組織になればなと思います。

ジュニアリーダーをそういったふうに活用するというは、今までいろいろな子どもキャンプとか、青少年指導員の指導のもといろんな活動したり、そういう研修とかを行っていると思うんですが、地区の子ども会の支援に活用していくということは町としてどう考えますか。

生涯学習課長 ジュニアリーダーズクラブの広報紙とか、そういうものをもっと広く配布をするとか、あるいは、やはり子ども会活動で今現在、数字忘れました、30地区か40地区ぐらいのいろいろな各会員子ども会の活動にジュニアリーダーが参加したりとか、そういうところで少し地道ではございますが、



活動してございます。そういうところをもっと子ども会のほうにも投げかけをしまして、やはり各地区にまず出向いて行って、ジュニアリーダーの存在を知っていただく、これは先ほども教育長の答弁の中にもございました。青少年指導員さんの下部組織ということになっておりますので、青少年指導員さんと一緒に、やはり出向いて今おりますので、やはりそういうところをもっと広く周知をして、認知をしていただいて、もっとそれが入りたいなという気持ちを持っていただいて、加入数が高くなればありがたいなと思っておりますので、さらに周知のほうはしてまいりたいと思っております。以上でございます。

教 育 長 今、ジュニアリーダーズのほうのクラブの話がでましたけども、今、課長が答弁しましたとおり、これは青少年指導員協議会の下部組織ということで一体となって活動しているというような状況でございます。特に子ども会活動につきましても、先ほど答弁でも述べさせていただきましたとおり、ドッチボール大会だとか、それからまたクリスマス会等に派遣をしているということでございますし、町の事業等にも出ておるといったところで、かなりかかわりを持って取り組んでいるのかなと私自身は感想として持っております。なおかつ青少年指導員の皆様方には力を入れて取り組んでいただいておりますので、他の市や町に比較しましても、この活動自体はすばらしいのかなと私自身は思っているところでございます。

しかしながら、その人と人数といった問題については、今、御指摘のとおりだと思っておりますし、そういったことにつきましては、青少年指導員の方ともお話をし、中学校等への紹介だとか、それからまた少し目立った場で活動するというのも一つより周知を図る意味ではいいんじゃないかとそんな話も相談しているところでございます。いずれにいたしましても、この子どもたちの様子を見てみますと、やはり町の事業だとか、青少年指導員のそういった行事、参加していただいた中でのそのきっかけが繋がっているのかなというところもございますので、当然子ども会といったところのお伺いした中でのさらにアピールしていけば、それが一角となってジュニアリーダーの認識度がさらに深まっていくのかなと思うところでございます。そういう意味においては、今後そういうところも意識して対応していけたらと思います。以上です。

1 番 ジュニアリーダーの件に関しては、もうちょっと募集をうまくやっていただいて、会員数ふやしてもらってもう少し地区の子ども会の支援のほうも力を入れていただけたらと思います。

あと、子ども会のほうでまた少し戻るんですが、理由がいろいろ人的な

役員等の問題もあるんですけども、金銭的というか、子どもの会費、町子ども会のほうには助成金を出して、補助してるんですけども、単位子ども会に関しての補助金を助成するというような考え、今後はそういった考えはありますか。

生涯学習課長 事務局といたしましては、町子連の存在もございますので、町子連への支援が単位子ども会への支援というそういう今認識で持っております。それからいたしますと、それぞれの単位子ども会への補助という形は今のところは考えてございません。ただ、単位子ども会につきましては、各自治会から出ている助成金的なものが出ているところがほとんどあるとこちらに捉えておりますので、そういう部分をもう少し自治会とも上手にお付き合いいただいてというところが一つあろうかなと思います。また、いろいろな事業的なものを特別にやっというこことであれば、それは一つ町の補助金の公募制度というものもございますので、そういうところを活用するというのも一つの案なのかなと思いますので、そういうところはもし御相談があれば、またその御相談に応じるという形でいい形に持っていければというところでございます。ただ、町からの単位子ども会へというところは今現在のところは考えていないというのが現状でございます。以上です。

- 1 番 単位子ども会への補助金というのは今のところ考えてないということですが、今、単位子ども会としては、町子連の方に保険といいますか、共済金という形でお金を1人当たり幾らという形で納めていますが、そういった部分の分だけでも1人数百円程度なんですけど、そういった部分だけでも町のほうで補助をしていただけたらと思いますので、その辺を要望して、時間ですので、私の質問とさせていただきます。ありがとうございました。